

『コンビニ・エバポ』に対応する濃縮容器をご紹介します！



◆コンビニ・エバポでは、どのような容器であっても濃縮ができるため、**今、お使いの容器をそのままご利用頂けます。**

※尚、ご利用頂けるのは、口内径4~32ml/高さ120mm以下の容器です。

例えば、ナスフラスコの場合、50ml容器が装着できる可能性のあるサイズです。

◆その中でも、**濃縮スピードがより速くなる・使い勝手が良い推奨容器は、**下記になります。

容器 (対応Spiral Plug: P1~5)	この容器で濃縮できたメリット[ユーザーズボイス]
 <p>1.5ml/2ml バイアル</p> <p>HPLC 用 サンプルバイアル (対応Spiral Plug: P1)</p>  <p>底部が円錐形の バイアル (対応Spiral Plug: 口内径による)</p>	<p>・「高沸点溶媒のDMSO,DMFをLCバイアルに入れたまま、濃縮することができるのは、便利ですね。」</p> <p>・「NMRで測定した後の試料の濃縮にぴったりです。」</p> <p>・「微量の試料の場合、2mLバイアルに移し替え真空ポンプで吸引するという手段もあるのですが、慎重に調節しないと吸い込んでしまい、貴重なサンプルをロスしてしまうので困ってました。2mLのバイアルでもそのまま濃縮できる点を評価しています。」</p> <p>・「貴重なサンプルを扱うため、回収が容易な底部が円錐形のバイアルを利用しています。ただ、この容器のままでは濃縮ができず別の容器を使う必要があり、結局、サンプルロスが悩みの種でした。コンビニ・エバポでは、この容器がそのまま使えるため、安心して濃縮ができています。」</p>
 <p>マイクロチューブ 試験管 (対応Spiral Plug: P1)</p>	<p>「フラクションコレクターを利用するため、2mlのマイクロチューブを利用するのですが、マイクロチューブに入った微量サンプルの濃縮をするのが今までは大変でした。だからこそ、このまま濃縮できるのは、非常に便利です。」</p>
 <p>5mlバイアル 10mlバイアル (対応Spiral Plug: P2)</p> <p>20mlバイアル (対応Spiral Plug: P3)</p> <p>50mlバイアル (対応Spiral Plug: P4)</p>	<p>・「最終的に保存する場合に使えます。合成した後、ナスフラスコのままで置いておく場所をとるし、ナスフラスコの数に限りがあるので、サンプル管に移して濃縮する必要が出ます。その際、ナスフラスコからサンプルをわざわざ移し替える必要がなく、手間がない点を評価しています。」</p> <p>・「バイアルは比較的安価に購入できるため、コンタミが気になる時に気軽に容器を換えられ、コンビニ・エバポで利用しています」</p> <p>※バイアル: サンプル管/スクリー管とも呼びます。</p>
 <p>マイクロチューブ (対応Spiral Plug: P2,3)</p>	<p>・「普段、遠心濃縮機を使っているのですが、1本だけを濃縮する必要がある時に、重宝しています。普段使っているマイクロチューブのまま濃縮ができるため、ナスフラスコの準備もいらず、ロータリーエバポレーターのセッティングに手間をとる必要もありません。」</p>
 <p>コニカルチューブ/ 15ml遠沈管/ (対応Spiral Plug: P3)</p> <p>コニカルチューブ/ 50ml遠沈管 (対応Spiral Plug: P5)</p>	<p>・「遠沈管に対応している濃縮装置があまりない中で、遠沈管のまま濃縮できるのは嬉しいですね。」</p> <p>・「従来はロータリーエバポレーターを用いていましたが、使うナスフラスコが比較的大容量になってしまう点が煩わしく思っていました。溶媒量は35mL程度ですが、ナスフラスコだと200~300mLサイズを用いることとなります。コンビニ・エバポであれば、同量(35mL)の溶媒の濃縮に50mLコニカルチューブを用いることが出来るので、そのまま濃縮できる事で、サンプルロスも少なくなるメリットを感じています。」</p> <p>・「小さな容器でロータリーエバポレーターみたいに減圧させて使用すると、管が細いので非常に突沸しやすいのと、樹脂の容器の場合は変形してしまいます。突沸もなく、耐圧性容器にこだわる必要もないので、使い勝手が良いですね。」</p>